

千客万来

2013年2月
[第35号]



[1] ご挨拶

大寒を過ぎ、各地からは厳しい冷え込みや積雪と共に、ノロウィルスやインフルエンザのニュースも聞こえて参りますが、皆様方には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年も当研究所のぶどう並びにぶどう加工品をお求め頂き、大変ありがとうございました。温暖化による影響をさらに感じた1年ではありましたが、皆様からお寄せ頂いた沢山のご評価の声を、今年の栽培に活かして行きたいと思っております。引き続き暖かいご支援ご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

[2] 研究所トピックス

①研究所人員のご紹介



*2012年12月21日撮影
自宅2号ハウス内にて

【後列左から】

沖 暢子
題府 純子
奥山 修子
久米井 靖江
山本 千里
林 智子

Good job
勤務歴3～7年目を迎える
スタッフの皆さん。
子を持つ強いお母さん達に
「花澤ぶどう研究所」は
支えられています。

【前列左から】

代表 花澤 伸司
母 花澤 睦子
父 花澤 茂（顧問）
講師 野上 庄吾（岡山市/野上ぶどう園 園主）

本年度より「花澤ぶどう研究所」の代表を交代致しました。

開設者である父(花澤 茂)の高齢化に伴う対応ですが、ぶどう栽培に影響がでることの無いよう、実際には3年前より交代の準備を進めて参りました。父のようにぶどう栽培や研究が天職と言えるようになるには、数十年の歳月が必要となりますし、生産者を取り巻く環境も天候と同様に年々厳しさを増すばかりですが、これからも知恵を働かせながら、皆様に“美味しい・楽しい・嬉しい”ぶどうをお届けできるよう頑張りたいと思います。

お近くにお越しの際には、是非、四季のぶどう園の様子を眺めにお立寄り下さい。

また、圃場内の様子等は下記ホームページやフェイスブックにて随時発信致しておりますので、こちらもあわせてご覧頂ければ幸いです。

[花澤ぶどう研究所]

ホームページ <http://www.hanazawa-grape.com>

メール info@hanazawa-grape.com フェイスブック 花澤ぶどう研究所

[カフェ HANAZAWA GRAPES]

*営業時間 (4～11月) 10:00～18:00 (12月～3月) 10:00～17:00 *休み 日祝及び研究所都合有り

②昨年度の状況と推移

〔ヒートポンプエアコン〕

ヒートポンプエアコンでの加温については、一定の栽培成果とコスト効果を確認することができました。ハウス内の温度推移はデータロガーで24時間記録をとりながら進めましたが、気温に連動して運転精度を高めていくことがこれからの重要なポイントであると言えます。また、電気代はガスや軽油を使用するより年額は安くなりますが、今後普及していく為には、初期投資額と未使用時期の電気基本契約料について解決していく必要があります。環境面及び安全面についての優位性は他燃料と比較するまでもありません。



次に熱帯夜への対策についてですが、昨年は夜間冷房の効果について二週間の実験を行いました。ブドウは日中と夜間の寒暖差が大きいと、色づきも良くなり糖度も上昇しますが、熱帯夜が続くと折角生成した糖を夜間に消費してしまう為、色づきが遅れたり糖度も上がりにくくなってしまいます。

⇒ 一日の温度較差や冷房効率、糖度上昇スピードのデータを採取。
今年度も継続して実験していこうと考えています。

〔6次産業と種まき〕

新しい試みとして始めた **Café HANAZAWA GRAPES** と Café前に設置した期間限定のぶどう直売所。Caféは圃場に隣接していますので、お茶を飲みながら四季のぶどう達の様子を眺めて頂くことができます。これは各世代に好評で、ぶどうがなっている状態を驚きながら写真撮りされる方も多く見うけられました。また、ぶどう直売所ではご進物用ではなくご家庭用のぶどうを中心とした販売を行いました。特に告知宣伝はしていないものの、設営中は多くの方々のご利用を頂くことができました。

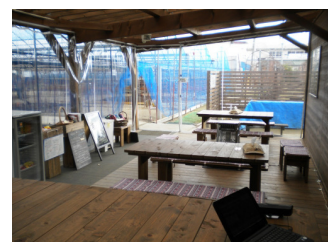
カフェや直売所といったこうした仕掛けは、“あそこに行けばぶどうがあるよ”という各世代の意識下への訴求方法として“有効かつ将来に繋がる種まき”であると私達は考えています。生産物は販売が伴ってこそ価値がある訳ですが、決して単純に販売するだけではなく、全ての試みが“花澤ぶどう研究所ブランド”にリンクするよう、これからも柔軟に展開したいと思います。



*瀬戸ジャイアンツパフェにゼリー達



*圃場のライトアップ



*冬季のカフェの様子

次に、従来から製造をしていたストレートジュースには、瀬戸ジャイアンツ（単品）の他に、研究所で栽培している各品種をブレンドした商品をラインナップに加えました。今年しかできないブレンドというのは、ワインにも似て少し贅沢な感じもしますが、特別な贈り物として少しずつご利用頂けるようになりました。



*瀬戸ジャイアンツストレート



*THE ブレンド 2012



*お祝いやお礼にオリジナルラベル

生産者にとって、生産物を無駄なく有効に販売し流通させる手段を確立していくことは、大変重要な課題となっています。人が持つ価値観や嗜好行動の変化が早くなりつつある現在、これからも、小さなぶどう園が出来ることをしっかり考えながら、少しずつカタチにしていきたいと思っています。

〔土壌改善〕

毎年収穫期が終わると、圃場全体へバーク堆肥を中心とした肥料を入れています。1年間働いて疲れた根や樹全体に対しての労いと回復促進的な意味がありますが、実際は翌年の初期成育（発芽～結実）を大きく左右する貯蔵養分の蓄積を増加させる為に行うものです。

肥料をやるには、まず施す土壌の状態を知ることが必要です。従来は経験や知識に基づいて施肥を行っていましたが、一朝一夕に経験が積める訳ではないので、そこは分析のチカラで補います。但し、単発的に分析を行うのでは意味がありません。年間を通して土壌の状態や施肥コントロールについて相談ができる体制作りを専門家に相談しながら“適正化を図ります”。



*土を3層に分けて採取し分析します



*ベースとなるバーク堆肥

バーク堆肥の成分（2012年分）

水分 58% 窒素 0.6% リン酸 0.4%
カリ 0.5% などなど

一輪車一杯で約20kgなので、主要成分の施肥量は土壌と樹の状態をみて、ここから計算します。

〔病虫害対策〕

ぶどうに限らず果樹栽培を行ううえで最も多いトラブルが、この病虫害による被害です。収穫量や品質に影響がでないようにする為に、年間を通して適切な予防と防除を行っていきませんが、使用薬剤量を減らしたい半面、害虫の耐性や温暖化（気候変動）等の問題もあり、年々神経質にならざるを得ない状況となっています。



1月の剪定が終わると、それぞれの木の粗皮むきを始めます。これは、ぶどうの木と皮の隙間に、害虫が卵を産んでいたり越冬をしていたりするので、それらを取り除くことで被害がでるのを防ぎます。

薬剤削減の為にもこの時期重要な作業ですが、根気がある作業なので大変です。（写真は粗皮むきに関する顧問の指導風景）

当所ではこうした効果を補完する対策として、減農薬対策として注目されている納豆菌や乳酸菌を使用した栽培手法の検証を始めました。

〔研修対応〕

例年、国内外からの視察研修等のご依頼を頂いていますが、昨年は韓国の忠清北道南部にある沃川郡よりぶどう生産者の方が来所されました。



沃川郡はソウルから南へ約170kmの位置にあり、内陸部特有の気候で寒暖差も激しい地域にあります。

（世帯数：約22,000世帯 人口：54,000人）

葡萄はこうした気候条件の良さもあり、韓国国内でも有数の特産地になっているようですが、栽培品種はベリーAなどがまだ中心の様です。

今回来所された方は30代～50代の方でしたが、中にはインターネットで日本の栽培技術を勉強しながら、マスカットオブアレキサンドリアを作っているという方もおられました。積極的に色々な情報を取込もうとする意思や行動力には感心させられるばかりですが、当所開発品種である、瀬戸ジャイアンツやハイベリー、マスカットデュークアモーレなどにも、大変興味を持たれていたようでした。

※今後のこうした研修や視察につきましては、当所顧問に無理のない範囲で対応する予定です。
ご希望等ございましたら、事前にご連絡をお願い致します。

[3] これからの予定

1月下旬まで	各ハウス剪定作業 穂木採取/発送	ハウス1棟 ビニール張替え 特定ハウス予備加温（二重張り）開始
2月	各ハウス皮むき作業 特定ハウス加温開始（ヒートポンプエアコン） 苗木育成準備（若干量のみ） *今年の春植えの苗木はまだあります。お問合せ下さい。来期分の販売は未定です。	
3月	各ハウス防除開始 加温ハウス発芽	

[4] あとがき

昨年末、2009年の衆院選で絶対的安定多数を獲得し誕生した民主党政権が、約3年間の迷走の後に終焉を迎えました。発足当時に掲げられたマニフェストへの国民の期待が大きかっただけに、この結果はある意味当然かも知れません。肝いりで始まったはずの仕分け事業の成果も効果も見えないまま財源確保が難航し、外交に至っては米国のみならず近隣諸国との関係さえ深刻なものとなりました。加えて震災復興への遅れや予算流用、原発問題にTPPなどなど。党内の意思統一さえできない組織では、本来目指すべき課題解決に対応できるはずもなく、最後まで国を担うというカタチを国民に示すことはできませんでした。

しかしながら、再登板する自民党に国民が過度な期待をしている訳ではありません。不安定な国政を一旦リセットして欲しいという願いは叶えられそうな感じもしますが、問題はここから。多くの難題に対してしっかりとした方針を示して頂きたいですし、中央と地方、都市と農村、市街地と山間地といった、国内全ての地域が持つべき役割を発揮できる、バランスの良い政治を進めて頂きたいと思います。

次に、現在のようにデフレ様な状態が続いていると、とりあえず「安いモノ」を求める消費行動が常態化していきますが、実はこの常態化こそが消費者側の自己的な思考や行動を招く一方で、生産者側の意識や品質そのものの低下を招く原因となっているのではないかと感じます。

当所でも昨年、大型スーパー向けに、単価の安いぶどうの出荷ができないかという問合せがありました。勿論、対象となるぶどうはありませんのでお断りをさせて頂きましたが、時間をかけて様々な管理をした結果として出来上がる生産物は、その時期にタイムリーに販売できなければ無駄になってしまいますので、値段を下げてでも販売する（売ってしまえ）という行動に繋がることは何ら不思議ではありません。

但し、これは生産物（生産者）の弱点であって、決して強みにはなりません。こうした状況を改善しつつ生産者が適正に共存する為の“知恵とセンス”“地域の連動”が今は必要不可欠と言えます。農業人口の高齢化と若者が農業を選択しない現実。農業政策も多々ありますが、世代交代を速やかに進める対策と、若者が感じる就業リスクの払拭という側面においては、まだまだ根本的に改革の余地がありそうです。

個人的な想いをつれづれに・・・。

まだまだ寒さが続きます。くれぐれもご自愛下さい。

2013.1.21



*剪定作業中
1月9日撮影



*剪定が終了したハウス
1月12日撮影



*剪定した穂木達
1月21日撮影